

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 3専攻12領域（後期課程11領域）の適切な収容定員について検討し、学生数を安定的に確保する。	→専攻別、入学定員充足率、領域別入学者数、在籍大学院生数と収容定員の割合。	B
2. 新基本構想「垣根なきラーニングコミュニティ（学びと探求の共同体）」で学ぶ大学院生像を具体化する。	→大学院入試におけるアドミッション・ポリシーの明文化と周知度。	C
3. 大学院受験者枠（一般・特別(外国人)・社会人・推薦）の募集方法および入学者選抜方法の適切性を確保する。	→各受験者枠における志願者、合格者、入学者の収容定員に対する割合。	B
4. 文学研究科における科目等履修生制度を導入する。	→資格申請のために必須となる科目の特定化とWEB上シラバスでの科目等履修許可の明示。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目5.0.1	(方針) 文学研究科は3専攻12領域（後期課程は11領域）において、基礎領域および応用実践領域での研究者・高度専門職業人、知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材の養成を目指しており、「大学院総合案内」に掲載している。 (現状説明) 関西学院大学大学院学則別表、大学院案内および文学研究科のホームページに掲載している。さらに、年に2回、大学院入試説明会を開催し、資料を配布し、質疑応答の時間を設けて文学研究科で求める「学生像」を口頭でも明らかにしている。年度末には文学研究科アドミッション・ポリシーを明文化した。これらの措置は目標2に沿っている。
☆ 小項目5.0.2	適切な学生募集方法により、入学者の選抜を行っている。入試問題作成から面接、採点および選抜に至る厳格で透明性の高い手続きが実施されている。一般の入試問題は、専門外国語、専門基礎科目、専門科目の3科目を実施しており、毎年、過去問を公表している。志願者総数は減少傾向にあるものの、前期課程の志願者倍率は100%を超えている。しかし、後期課程は2009年度100%を下回った。前期課程の学生確保は安定しているが、後期課程は下降気味であり、入学者に占める一般入学者の割合が縮小化していることが原因と考えられる（特定6項目データ参照）。
☆ 小項目5.0.3	入学定員を専攻別に設けているが、入学定員64名に対し、2009年度の前期課程志願者は71名、合格者50名、入学者41名であった。入学定員20名に対し、後期課程の志願者は15名、入学者は15名であった。一方、在籍学生数は、前期課程が116名(収容定員の87%)、後期課程が52名(収容定員の87%)であり、全対として在籍学生数はおおむね適正に管理されている。ただし、専攻によりばらつきがあるので検討を要する。
☆ 小項目5.0.4	(現状説明) 研究科委員会、研究科執行部会、領域代表者会議、大学院問題検討委員会を定期的に関き、学生募集および入学者選抜方法の適切性について検討している。
☆ その他	目標4に掲げた科目等履修生制度の導入が求められているが、実現に向けて具体的な検討を行っている。

《特定6項目データ》

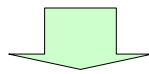
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学研究科】		前期/後期課程	単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	60.7%	75.0%	77.9%	63.4%	80.8%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		50.0%	40.9%	41.1%	53.3%	31.8%	
指標2	志願者総数	前期課程	人	81	84	100	71	66	
		後期課程		29	28	19	18	23	
指標3	志願者倍率	前期課程	%	126.6%	131.3%	156.3%	110.9%	103.1%	志願者÷入学定員
		後期課程		145.0%	140.0%	95.0%	90.0%	115.0%	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	2009年度大学院GPに採択され、総合心理学専攻を志望する学生が増えている。
小項目5.0.2	一般入試と特別入試枠、前期課程は推薦による入試を実施し、学部の成績が優秀な志願者には推薦制度を設けて優秀な学生を確保するようにしている。
★小項目5.0.3	前期課程では収容定員に対して在籍学生数は安定的に維持されている。学部生に対する大学院入試説明会や社会における高度専門職が増えている分野が増えていることも理由としてあげられる。
小項目5.0.4	特になし。
その他	特になし。



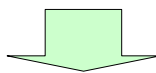
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	2009年度の大学院GP採択に加えて、総合心理学専攻では2010年度は文科省「戦略的研究基盤の形成支援事業」に採択されているので、院生の研究を刺激するためにも、優秀なポスドクの雇用を実行する。
小項目5.0.2	優秀な後期課程志願者の確保を務める必要がある。
★小項目5.0.3	学部生に対する大学院入試説明会を充実化し、大学院生と学部生のゼミや研究交流を増やし学部と大学院の連携を強化する。
小項目5.0.4	現在の大学院入試方式をさらに多様化する方法、特に科目等履修制度の実施とともに社会人志願者を増やすことを検討する。
その他	特になし。

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	求める学生像はアドミッションポリシーで明文化されたが、出口の問題、すなわち進路の問題も現実的に検討する。
小項目5.0.2	内部からの大学院進学者が大多数を占めるが、外部からの優秀な志願者を増やす方策が必要である。社会人と外国人の大学院生が少ないので、検討が必要である。
★小項目5.0.3	後期課程では専攻別の収容定員充足率を検討する。
小項目5.0.4	科目等履修制度の実施に向けた具体的検討を促進する。
その他	特になし。



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	上記の検討を進める。
小項目5.0.2	上記の検討を進める。
★小項目5.0.3	大学院新中期計画タスクフォースでも安定的な学生の確保について検討が始まっている。
小項目5.0.4	大学院全体の問題として、社会還元度の高い高度専門職教育のための学生の受け入れ方法を検討する。社会人、科目等履修生、留学生など「特別枠」の拡大が必要になる。
その他	特になし。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○前期課程の志願者倍率が好調で、後期課程が低調であることの背景要因を仮説としてでも提示することが重要です。
○高度職業人養成が好調であり、逆に従来からの研究者育成のニーズが低下しているということでしょうか。
○収容定員と在籍学生数の関係は他研究科に比べて良好です。しかし、両者の間にはなお若干の乖離があり、これをなくすことが望まれます。また、科目等履修生制度を導入するとされていますが、何を具体的に検討しているのかが分かりません。
○研究科に進学することが多い学部と考えられるので、アドミッション・ポリシーを精査し広報活動を強化することが求められます。

【学内委員】

なし

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 後期課程への志願者が「低調」である背景要因として、就職問題、とくに大学教員職を得ることがますます困難になってきたことがあげられます。そのため、本研究科では、「高度職業専門家養成」にも力を入れる必要を認識し、大学職以外の職場で高度な専門性を要する職場にも注目しています。研究者育成のニーズは低下していないと分析していますが、同時に社会で必要とされる高度な専門知識と技量をもった人材の教育も重視するということとなります。日本学術会議でも、今後、日本の国際競争力を促進させるため、大学院で教育を受けた高度職業専門家の雇用の必要性を説いています。

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

5.0.0.S1	学生の多様性の確保－入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

＜個別的な指標＞
